

# (6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

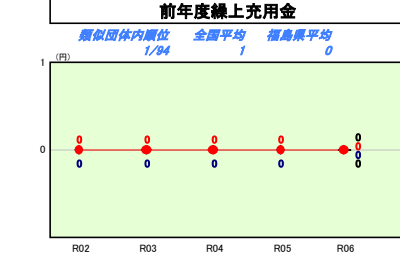
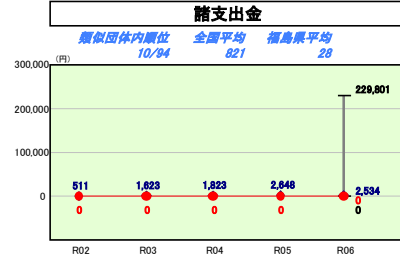
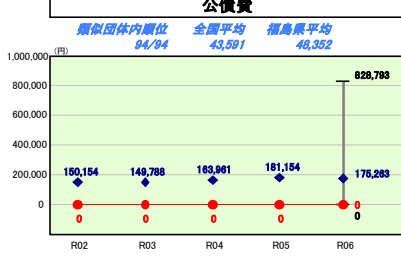
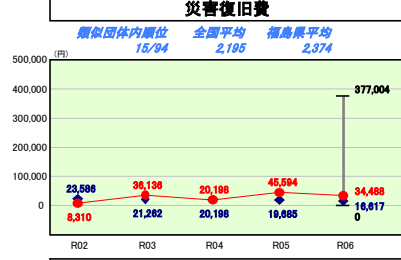
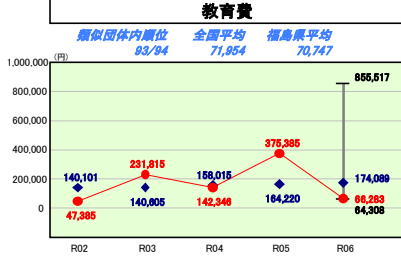
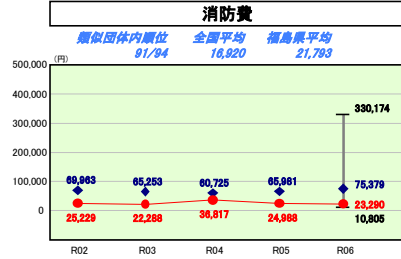
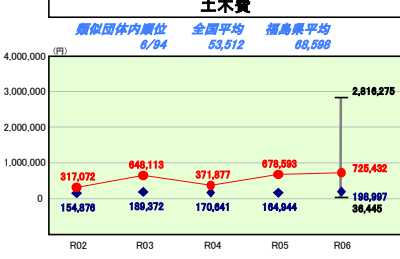
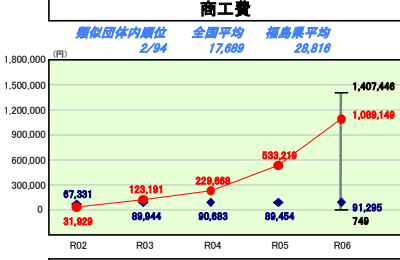
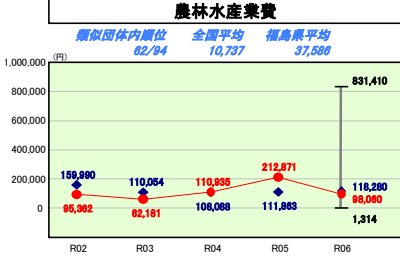
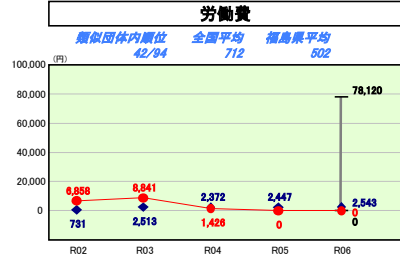
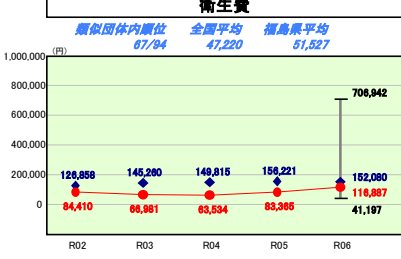
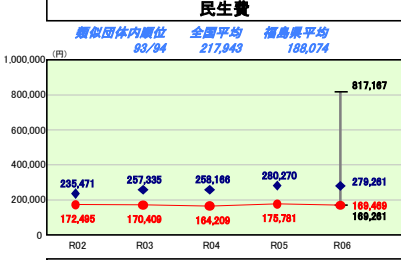
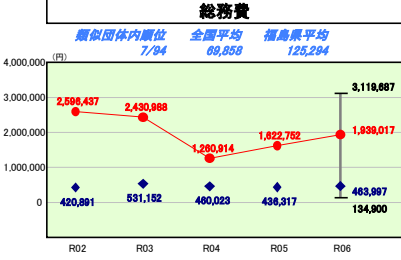
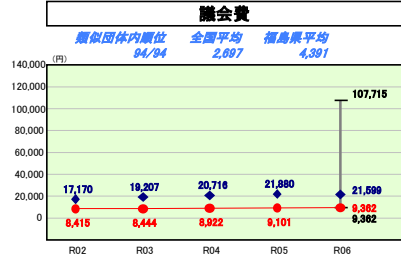
令和6年度

福島県大熊町

人口	9,944人(7.1.1現在)	実収赤字比率	-	%	
うち日本人	9,884人(7.1.1現在)	連結実収赤字比率	-	%	
面積	78.71km <sup>2</sup>	実収公費費比率	-1.0	%	
歳入総額	48,996,247千円	実収負担比率	-	%	
歳出総額	42,475,175千円	市町村類型	R02 I-0	R03 I-2	R04 I-2
実収収支	334,739千円	(年度毎)	R05 I-2	R06 I-2	
標準財政規模	6,882,576千円				
地方債現在高	0千円				



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和6年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



## 目的別歳出の分析値

住民一人当たりのコストは4,271,417円となり、前年度と比較して509,766円増となった。  
 また、類似団体と比較し総務費、商工費、土木費が高い水準となっている。  
 要因として、総務費においては復興事業の財源となる特定目的基金の積立が挙げられる。商工費については、R4-R6にかけて大きい伸びとなっているが、これは大野駅西商業施設および産業交流施設の整備によるものとなっている。  
 土木費については、インフラ整備にかかる町内の道路等の新設及び維持補修関連経費によるものである。  
 今後も、総務費及び土木費においては類似団体と比較し、高い水準が予想され、商工費のように復興計画に基づく施設整備等により突発的に水準が高くなる可能性がある。